

瀬戸内寂聴

99年生きて思うこと

監督:中村 裕

出演:瀬戸内寂聴

プロデューサー:松浦 敬 阿部 毅 成瀬保則 伊豆田知子

製作:朝日新聞社、KADOKAWA、平成プロジェクト、スローハンド、

クイーンズカンパニー、徳島新聞社、京都新聞、朝日放送テレビ

配給:KADOKAWA 制作:スローハンド 協力:曼陀羅山 寂庵

©2022「瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと」製作委員会

大正、昭和、平成、令和と

4つの時代を生きた作家が語る、

「恋」と「革命」その人生。

密着17年一。誰も知らない瀬戸内寂聴の

金言の数々と秘蔵映像。

晩節なんか汚したつていい。
好きに行動すればいいの。



徳島県介護福祉士会 令和4年度キャリアアップセミナー

無料

特別上映会 2022.11.11(金)

開場 10:15~・開演 10:45~
健祥会トゥモローホール
徳島市国府町東高輪字天満356-1



国民的作家・寂聴さんと ディレクター“裕さん”。 密着17年。二人の間に “タブー”はない。

2022年5月15日で満100歳を迎えるはずであった瀬戸内寂聴に、密着17年間という歳月を撮影し続けた監督・中村裕。2015年にNHKスペシャル「いのち 瀬戸内寂聴 密着500日」(ATP賞ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞)のディレクターもつとめた実力派監督だ。17年に及ぶ密着では、日常的に互いに全てを報告し合う、まるで母親、先達、友人、あるいは恋人のような…形容しがたい関係性の二人。長年、寄り添い続けた監督だから描ける“誰も知らない瀬戸内寂聴”の“本音”や“金言”の数々が満載の貴重なドキュメンタリー映画が誕生した。

99年の恋と革命。 その波乱万丈の「生き様」とは—。

寂聴は、死の直前まで月刊誌、新聞の連載をこなす“現役”作家であり、2020年1月まで行っていた、月一の法話には全国から人が押し寄せる「最長寿の国民的アイドル」。駆け落ち、不倫、三角関係など、自らの体験を私小説の形で次々に発表し、世間のバッシングに晒されるも、女流作家として不動の地位を確立。51歳のとき出家し、以来、僧侶、作家の2つの顔を持つ。いつまでも恋心を持って生きる—。女性であるということを忘れず人生を楽しむ—。彼女の“生き様”は、不寛容な空気が充満しつつある現代社会で、人間の生命力とは何かを強く感じさせてくれ、〈いかに生き、老いていけばいいのか〉というヒントともなるはずだ。

生きるということは、死ぬ日まで自分の可能性をあきらめず、
与えられた才能や日々の仕事に努力しつづけることです。

生きることは愛すること。

瀬戸内寂聴
99年生きて思うこと



特別上映会

徳島県介護福祉士会 令和4年度キャリアアップセミナー

「瀬戸内寂聴99年生きて思うこと」

令和4年度 徳島県地域医療介護総合確保基金事業

入場無料

福祉関係者以外の一般の方も参加できます

日時：2022年11月11日(金) 10:45～12:20 (開場10:15～)

会場：健祥会トゥモローホール 徳島市国府町東高輪字天満356-1

定員：100名(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため席数を減らして実施いたします)

●ご予約・お問い合わせ

☎088-642-7522 (事務局 / 河野)

お申し込みはこちらから▶



*入場時の検温・手指消毒・マスク着用のご協力をお願いいたします

主催：一般社団法人 徳島県介護福祉士会